

令和 5 年度東京都立八丈高等学校全日制課程学校運営連絡協議会実施報告書

1. 組織

(1) 東京都立八丈高等学校 学校運営連絡協議会 (全日制課程)

(2) 事務局の構成

副校長 主幹教諭 (教務主任) 主任教諭 (生活指導主任、進路指導主任) 計 4 名

(3) 内部委員の構成

校長 副校長 経営企画室長 主幹教諭 (教務主任) 主任教諭 (生活指導主任)
主任教諭 (進路指導主任) 計 6 名

(4) 協議議員の構成

地域自治体首長 地域教育委員会教育長 近隣中学校長 地域官公庁から 5 名
PTA 会長 地域有識者 計 10 名

2. 令和 4 年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会 (第 1 回～第 3 回) の開催日時、出席者、内容、その他

第 1 回 令和 5 年 5 月 9 日 (火)

協議委員委嘱 委員紹介 評価委員の選出

第 2 回 令和 5 年 10 月 20 日 (金)

教育活動中間報告及び学校評価アンケート案提示

第 3 回 令和 6 年 2 月 8 日 (木)

教育活動の年間総括 (各分掌まとめ)

学校評価アンケート集計結果 来年度への課題

(2) 評価委員会の開催日時会場 出席者 内容 その他

第 1 回 令和 5 年 5 月 9 日 (火)

学校評価の基本方針の確認 昨年度の学校評価の分析・考察

- ・高校卒業後に町を出る生徒が多いが、是非町役場も進路選択肢の 1 つとしてほしい。(八丈町長)
- ・交通安全パレードにおける本校生徒の一日警察署長の取り組みへの協力に感謝 (八丈島警察)
- ・[質問]遅刻の原因が多い理由について・ボランティア活動の内容について (中学校校長)

⇒コロナ禍の影響、また、起立性調節障害の生徒も見られる

小中学校の依頼に応じて学校行事に積極的に参加

- ・学校の情報が聞けて有意義な時間であった (保護者)

第 2 回 令和 5 年 10 月 20 日 (金)

今年度の学校評価の観点・項目・内容の検討 実施時期の検討

- ・ここ数年で八高の取り組みが外から見えるようになっている。

生徒会交流など、引き続き中高連携の取り組みを (中学校校長)

- ・闇バイトなど、SNS 経由の問題が若年層に広がっている。不法バイトなど、学校外における生活についての指導をこれまで以上にお願いしたい。（八丈島警察）
- ・センターへの相談件数が昨年の 2 倍に増加している。気になる生徒がいたら、積極的に連絡を（子ども家庭センター）
- ・科目選択について、HP などを活用して保護者に積極的に情報開示をしてほしい（保護者）

第 3 回 令和 6 年 2 月 8 日（木）

学校評価アンケート集計結果 来年度への課題

全日制課程：生徒は高い評価であった 広報活動で情報が届いていない点があったので改善を図る。

定時制課程：昨年度総括から見出した課題と今年度の 3 つの取組は概ね達成できた。

生徒の非認知能力について分析結果報告。次年度在籍数の減少に合わせた内容吟味に取り組む。

委員より質問、意見等はなかった。

- ・東京都教育委員会表彰が全定から 1 名ずつ出たのは、八丈島の小中学校としても卒業生が活躍しており喜ばしい。（中学校校長）
- ・来年度八丈高校から 1 名就職予定。島内出身かつ ICT 知識が高い生徒の就職はありがたい。（八丈消防）
- ・センター関連の生徒が全定に 1 名ずついる。引き続き連携を図りたい（子ども家庭支援センター）

3. 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

（1）学校評価の観点

「生徒の様子について」「教育活動について」「教職員の取り組み状況」「地域との連携」の観点で実施する。

（2）アンケート調査の実施時期・対象・回収数・回収率 ※ 全対象、Forms によるオンライン回答とした。

1 2 月	在籍生徒	対象：132 名	回収：82 名	回収率	62.1%
1 2 月	保護者	対象：126 名	回収：23 名	回収率	18.2%
1 2 月	教職員	対象：52 名	回収：46 名	回収率	88.5%
1 2 月	地域教育関係者	対象：26 名	回収：23 名	回収率	88.5%

（3）主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、学校行事及び部活動、防災教育、健康と安全施設・設備、教職員のライフワークバランスなどの評価項目を学校の実態に合わせて設定。

（4）評価結果の概要

- ・保護者の回答率が異様に低く、いかにして保護者への回答率を上げるかが最重要課題。また、同様に生徒の回答率も低い。紙と違ってその場ですぐに確認ができないため、生徒がきちんと答えているかを確認するかがわからず、この点についても要検討。
- ・全体的には高評価であるが、学校の取り組みなど、情報がきちんと伝わっていないことが課題であり、保護者や地域への広報活動等、発信方法に工夫をしていく必要がある。
- ・小中や保育園も含め、地域との連携について何ができるかを探っていく必要がある。

4. 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた意見（全日制課程 定時制課程）

- ① 町の人材不足などの問題を背景に、八丈町役場も含めて「将来は八丈島に戻る」人材の育成が求められている。八丈学を中心に、生徒たちに八丈町が直面する課題について考えさせる。
- ② 潜在的なものも含め、家庭内や私生活において何らかのトラブルに見舞われている生徒の情報を共有することができた。子ども家庭支援センターや警察署と引き続き連携していく。
- ③ 地域が八高及び八高生に対して、現取り組みについて評価をしている反面、更なる地域との関わりを求めている。教員のワークライフバランスや生徒の負担感について考えながら、できることを探っていく。

5. 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・取組の成果をタイムリーにTwitterを中心に発信し、広報活動を推進する。
- ・オンライン開催も活用した教員研修を積極的に進め、更なる授業等の改善・充実を図る。

(2) 学習指導

- ・自学自習、家庭学習習慣の定着化を図るとともにICTを活用して、個別最適化学習の取組を進める。
- ・島しょDXの取り組みも含めて、小中と連携した小中高の系統的な学習を意識して学力向上を図り、教育内容を充実させる。

(3) 特別活動

- ・生徒会活動を中心に、生徒の自主自立を支援。来年度以降の標準服制度の本格実施。
- ・部活動への参加の促進、部活動を中心とした様々な大会、コンテスト等への参加の励行。

(4) 生活指導

- ・ハワイ研修を中心とした国際理解教育の推進の充実。
- ・薬物乱用防止教室、ヘルメット着用の徹底等、自転車安全教室等を通じての安全教育の実施。

(5) 進路指導

- ・関係機関や高大連携を生かした3年間を通じたキャリア教育を推進し、高いレベルでの進路実現に向けて取り組む。
- ・1学年移動教室の際に上級学校や企業、TGGを訪問し、将来の進路決定につなげる。

(6) 健康・安全

- ・スクールカウンセラー、YSW等を活用し教育相談体制を充実させる。
- ・八丈分教室からの協力、また、エリアネットワークを活用して特別支援教育体制を充実させる。

6. 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
10	0	0	0	0	0	0

7. 職員研修・連絡会及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員研修・連絡会 1回 企画調整会議 0回

8. その他 （総括）

- ・オンライン回答が普及定着して、教員の回答率が上がる一方で、昨年度よりも全体的に回答率が下がってしまっており、オンライン回答の活用については今後検討が必要と思われる。
- ・意識的に学校の行事等に参加してくれている方々からの八高の1つ1つの取組への評価が高い一方で、知らない人たちは全く理解をしておらず、引き続き広報活動の在り方や方法については課題として取り組む必要がある。
- ・八丈学にとどまらず、小中や地域のイベントへの参加など、これまで以上に連携し、八丈高校の魅力を更に高めていく。